

令和7年度神奈川県立鶴見支援学校

第3回学校運営協議会開催結果

開催日時	令和8年2月24日(火)
開催会場	鶴見支援学校
参加者	7名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度学校評価（年間評価） ○パワーポイント資料 ○部会資料
委員からの意見等概要	<p>○校長挨拶 ○参加者挨拶</p> <p>【学校評価部会】 令和7年度学校評価（年間評価）について</p> <p><視点1教育課程、学習指導> 授業のねらい、身につけたい力を学習指導案に明記し、教員が意識することはほぼ定着してきた。今後は「音楽・美術・体育の身につけたい力一覧」「学びの山場関連計画」等を活用し、集団授業としての身につけたい力の明記を定着させていく。校内研究では、「教科の特色を踏まえた授業改善」をテーマに、各学年でサブテーマを設け、「身につけたい力」を明確にし授業改善に取り組んだ。身につけたい力を行動目標として学年内で共有し、児童・生徒を共通の視点から評価できる体制が整った。全学年から多くの授業改善アイデアが提出された。教育内容一覧は、音楽、体育、美術、生活・生活単元を、学習指導要領と照らし合わせながらまとめた。教育内容一覧は今後、教科等年間指導計画作成に活かせるように整えていく。キャリア・パスポートや目標達成シート等で児童・生徒が活動や役割を意識し、振り返ることができているので、今後も活動を継続し、より効果的な活用を目指していく。</p> <p><視点2児童・生徒、指導支援> 小中学部は、山柵式のアセスメントシートを活用し始めている。高等部は1年生全員に対して、太田ステージを実施し、個別教育計画の作成、日々の学習活動に反映した。分教室は、相談担当に定期的に生徒の学習活動を観察してもらい、適宜必要な支援につなげた。アセスメントが定着し、正しい実態把握に基づいて指導、支援をしていくこと、そして個別教育計画や、日々の指導、支援に活かすようにしていくことが課題である。 教材データや実物教材の共有化が進んでいる。個別課題学習の教材については、高等部の校内研究での実践発表があり、授業改善の意識が見られている。</p> <p><質疑応答・意見等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のアイデアとして、例えば「物を投げる動作」はひもに通した筒を動かすことによって感覚をつかんだり、縄跳びを跳ぶ際に音楽に合わせることでタイミングをつかめやすくなったことなどがある。 ・「実態の把握」では、4年間の大きな目標に「組織的、効果的な支援を行う」とある。目標達成状況、課題の改善の中に「アセスメント結果の情報共有の仕方」「保護者の参画の仕方」といった文言がない。「ケース会の実施、面談の充実」であるが、そこまでの情報共有の仕方が重要。今回の評価は一面的な感がある。 ・行動面の支援に対して、学校側の指導方法、支援方法について、保護者と共有していることが大切。 ・色々なことに取り組んでいる中でそれが伝わったか、ということも大事。学校に頻繁に来られない保護者の方はPTAとの接点が少ない方もいるので、伝えることを目指すことも必要ではないか。 <p><視点3進路指導・支援について> 保護者、職員向けの企業、福祉事業所見学会、学校運営協議会主催の進路学習会、保護者対象進路学習会、いずれも学部を問わず多くの参加があり、感想にも有意義な時間だったことが表れていた。今後もニーズに合わせた学習会等を実施していくとともに、教員も情報を共有し、日々の指導の参考になるようにしていく。</p>

<視点4 地域等との協働>

センター的機能の一環として、ホームページのトップに「教材コーナー」というバナーを作成した。活用状況を検証し、更なる情報も発信していく。校内交流、地域との交流は今年度も各学部室で行った。今後も継続、発展を目指す。現在、定期活動のボランティアは18名、週当たり延べ51名のボランティアが活動している。その他にも行事ボランティアが延べ15名、縫製ボランティア(不定期)が延べ5名活動しており、昨年度よりも大幅に増加した。定期活動のボランティアはそのまま継続して活動を依頼する予定。

<視点5 学校管理、学校運営>

避難訓練は、役割を変えて訓練を実施することができた。2学期からはシェイクアウト訓練の回数を重ね、ヘルメットが被れるようになったり、スムーズに避難できるようになったりと、児童生徒も落ち着いて訓練に参加することができた。鶴見区が主導して進めている地域防災に、本校は地域の補足的避難所として、施設の一部を提供する。協力できる部分を鶴見区と連携しながら行っていく。

働き方改革に向けた業務改善は、R9年度実施を見据え、放課後に授業準備等の時間が確保できるよう日課の見直しを進めている。今後も学G会の中で、また学校運営協議会委員にも、様々な視点から助言をいただき、検討を進めていく。

<質疑応答・意見等>

- ・NP0 法人障害者雇用部会の中でも、鶴見支援学校の地域協働の取り組み、学習会についての積極的な取り組みについて評価をいただいている。継続的に取り組んでいただき感謝申し上げます。
- ・ボランティアの募集は、駒岡地区の連合会、自治会回覧板にチラシを入れる方法が一番効果的である。
- ・教材をHPに載せていることについて今回初めて知った。保護者はあまり知らない。HPを見ない方も多く、今後「すぐーる」に移行するので、活用して発信してほしい。
- ・進路指導支援について、昨年10月から就労選択支援制度が導入されている。アセスメント、評価をきちんと行わないとB型に行けないという位置づけになった。雇用部会ではその中で、企業就労実習をそういった評価の場にできないか等、色々意見が出ている。
- ・進路学習会が。児童生徒指導支援にどのようにつながったのかが見え難い。児童生徒目線の言葉が少ない。
- ・総合教育センターでは企業就労のため「キャリアアセスメント」があり、障害者職業センターの検査キッドを使って行う。職種は3職種。最大の特徴は本人面接がある点。本人の就労に向かう姿勢、構え、夢を聞き取る。悩みがある方や企業実習に行く前のきっかけ作り、保護者との情報共有のきっかけになる。
- ・「企業と語ろう」における鶴見の取り組みが非常に大きな波になっている。労働局の参加があり、問い合わせがあった。神奈川県の実験校ではない特別支援級の教員を集めて実施したいと第1回目を実施された。鶴見の取り組みが地域協働につながっている。
- ・教員の交通誘導に関わる時間、SB発車後に30分程度昇降口で子どもたちが待っている。日課表の改訂等業務改善を検討している。
- ・一般企業では考えられない。神奈川県は運営上の問題をどのように考えているのか。
- ・鶴見支援は車が入りきらないほどであり、誰も想定していなかった。車の誘導は危険も伴う。先生方は業務ができず、時間を奪っている。少しでも先生方ご苦勞に報いる方策をこの場で検討していただきたい。
- ・「責任」と言う問題は出てくる。先生がやっていたら防げるのかと言う話でもない。ボランティアに頼ることは可能なのか、誘導に関して色々業務がある中で、どこかは外部に委託や誰かに委託という話が出てくる。
- ・せめて登下校手当で報いるなどしてはどうか。業務として見えないところに潜っている。
- ・安全上の問題も含んでいる。改革の必要がある。
- ・放課後等デイサービスの管轄は横浜市になり、かなり厳しい制度の中やっている。事業所ごとでまとまった引き渡しができる等工夫もしてもらいたい。
- ・なおさら制度的な仕組みが必要。神奈川として考えていくべき。
- ・制度に現状が追いついていない感じも受けた。
- ・ボランティア同士の交流、どうボランティアに活躍してもらおうのか、放課後等デイサービスと連携をとっていくときも情報共有がすごく大事だと思う。
- ・誘導は警察官も難しい。警察官が誘導するときは人が集まるお祭りや交通事故の時。通常通っている人が納得してくれるというところがあるのでスムーズに行く。学校で渋滞

が起きることが常態化していて、よく思わない方は学校に連絡をするか、連絡をして納得をしない方は 110 通報をする。交通誘導するときは児童生徒の安全を確認していただければ。

【切れ目ない支援部会・学校設置部会】

地域協働部会

テーマは次年度保護者、教員対象の進路学習会と地域協働活動CO. について。次年度は「企業と語ろう」が8月中旬頃に鶴見支援であるので、それ以外に形を変えて部会としてできることは何があるだろうと言うことでご意見をいただいた。地域協働活動CO. については現在あおば支援学校で取り入れている。どういう業務なのか、情報を集め、鶴見支援学校でも是非入れていきたいと考えている。

地域安全部会

防災と不審者対応について、避難よりもその後が大事ではないか。線をつなげた支援が必要である。鶴見支援学校は補充的避難場所に指定されている。今年度は具体的になってきた。学部単位でダンボールベットや寝袋体験、備蓄食料の喫食を通して防災の体験を進めている。訓練の仕方の工夫については、情報を共有すること、マニュアルをすべての教員が頭に入れて行動し、シミュレーションの際には想定外のことを考え行動する。

不審者はうろろろするというイメージがあるが、その場から動かない場合もある。不審者の犯人というのは、自分がやることに夢中になって他の情報が入らない状態なので、逃げていく先を放送していくことが重要である。

○会長挨拶

○校長挨拶

○事務連絡 次年度の開催については、新年度通知する予定。

閉会